

令和7年度第1回ふなばし市民大学校運営協議会会議録

(令和7年10月8日作成)

1 開催日時

令和7年8月14日(木) 午後2時00分～午後3時00分

2 開催場所

ふなばし市民大学校 6階 第1教室

3 出席者

(1) 委員

高山委員(会長)、石川委員(副会長)、村尾委員、岡委員、川田委員、山本委員、石山委員、松丸委員

(2) 事務局

生涯学習部長、社会教育課長、社会教育課主査、社会教育課主任主事、社会教育課主事

(3) その他

ふなばし市民大学校事務局(公益財団法人船橋市公園協会)

事業部参与、市民大学校事業課長、市民大学校事業課副主査、市民大学校事業課嘱託職員、市民大学校事業課準職員2名

4 欠席者 宇都宮委員

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

(1) 令和6年度修了生及び令和7年度入学生について 公開

(2) 特別講座の実施について 公開

(3) 市民スマホコンシェルジュ養成講座の実施について 公開

(4) 他学科聴講について 公開

(5) その他 公開

6 傍聴者数 0人

7 決定事項

- (1) 令和 6 年度修了生及び令和 7 年度入学生について、質疑応答及び意見聴取を行った。
- (2) 特別講座の実施について、質疑応答及び意見聴取を行った。
- (3) 市民スマホコンシェルジュ養成講座の実施について、質疑応答及び意見聴取を行った。
- (4) 他学科聴講について、質疑応答及び意見聴取を行った。

8 議事

次のとおり

9 資料・特記事項

(1) 傍聴者配布用資料

別添のとおり

(2) 特記事項

今回は、令和 7 年 1 0 月から 1 1 月頃に開催予定です。開催場所等は、後日お知らせします。

1 0 問い合わせ先

船橋市教育委員会 生涯学習部 社会教育課 庶務施設係

0 4 7 - 4 3 6 - 2 8 9 2

午後 2 時 0 0 分開会

○高山会長

それでは、ただいまより令和 7 年度第 1 回ふなばし市民大学校運営協議会を開会いたします。

まず、本日の出席状況について、事務局から報告をお願いいたします。

○社会教育課（社会教育課主査）

本日の出席状況を報告いたします。本日は、ふなばし市民大学校運営協議会委員 9 名に対し、8 名の出席をいただいております。なお、宇都宮委員におかれましては、欠席される旨の連絡をいただいておりますので、報告いたします。

○高山会長

ありがとうございます。

次に、会議の公開及び傍聴人について、事務局から報告をお願いいたします。

○社会教育課（社会教育課主査）

次に、会議の公開について報告いたします。附属機関及びこれに準ずるものの会議は、船橋市情報公開条例第 26 条の規定に基づき、原則公開することとなっております。本会議もこれに基づき原則公開となります。また、船橋市附属機関等の会議の公開実施要綱に基づき、会議終了後、おおむね 1 週間以内に会議概要を公表し、その後、個々の委員の発言内容も含めまして、審議経過等が明確となるように会議録を作成し、委員名簿も含めて市のホームページで公表いたします。そのため、本日の会議は録音させていただきますことをご了承ください。

続きまして、傍聴人について報告いたします。受付をいたしましたが、傍聴希望はございませんでした。

○高山会長

ありがとうございました。

それでは、議事に移ります。本日の会議の議題は、お手元に配付した次第のとおり、議題 1「令和 6 年度修了生及び令和 7 年度入学生について」、議題 2「特別講座の実施について」、議題 3「市民スマホコンシェルジュ養成講座の実施について」、議題 4「他学科聴講について」、議題 5「その他」とし、この順で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○高山会長

ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

議題1「令和6年度修了生及び令和7年度入学生について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局（市民大学校事業課長）

議題1「令和6年度修了生及び令和7年度入学生について」、報告いたします。

まず、令和6年度の修了生について、資料1-1「令和6年度ふなばし市民大学校在籍者数」をご覧ください。令和6年度の修了者数について、「在籍者数（b）」という欄をご覧ください。令和7年3月8日に船橋市民文化ホールで修了式を行い、まちづくり学部90名、いきいき学部が242名、合計332名が修了いたしました。「入学者数（a）」の欄が352名でしたので、在籍率、これは修了率と言ってもいいと思いますが、94.32%となっております。前年度の令和5年度と比べますと、1.71ポイント低い結果となりました。

続きまして、資料1-2、1-3、こちらは毎年度末に学生へ実施しているアンケートの集計結果になります。資料1-2のほうがまちづくり学部、資料1-3のほうがいきいき学部となっております。設問数がありますので、設問ごとに説明していきますと時間がかかってしまいますので、ここでは各学部の特徴的な部分について説明をいたします。

まず、資料1-2をご覧ください。こちらがまちづくり学部の学生へのアンケート結果となります。設問の中では、学んだことをどのように活かしていきたいかや、学習内容への評価、授業料について、修了後の活動予定、入学当初の目標の達成状況などについてお伺いしております。

各学科の最後の設問をご覧ください。「ふなばし市民大学校入学当初の期待や目標は、1年間の講義や活動を通じて達成されましたか」という設問について、無回答だった方を除きまして、「十分に達成している」と「ほぼ達成し、まあまあ満足している」と回答した方の合計は、ボランティア養成学科ですと4ページの記載のとおり18人中18人、率でいうと100%。スポーツコミュニケーション学科は6ページの下段で、13人中13人で、100%。生涯学習コーディネーター養成学科が10ページの上のほうにございますが16人中16人で、これも100%。そして、ふなばしマイスター学科が13ページの上です。こちらについては23人中20人ということで、率でいうと87.0%とい

う結果になりました。

まちづくり学部全体の満足度で見ますと、70人中67人ということで、割合は95.7%となりました。この結果は、令和5年度の同じアンケートと比較しますと、令和5年度が91.4%でしたので、4.3ポイントの上昇となっております。全ての学科で8割以上の方から「満足」「ほぼ満足」の回答を得ておりますが、3つの学科で100%と高かったということが特徴的でございました。

ボランティア養成学科につきましては、地区社会福祉協議会での体験学習や市民活動団体とのマッチング会、団体での活動体験など、より実践的なカリキュラムに変更しております。ボランティア活動につながりやすい環境とすることができています。スポーツコミュニケーション学科及び生涯学習コーディネーター養成学科も、学習した内容の実践の場として市民向けの講座・イベントを学生が自ら企画し、2月に生涯学習フェアということで実施をしております。このようなアウトプットの場が学生の今後の活動への自信につながっているのではないかとということで、評価をいただけたのではないかと考えております。

続きまして、資料の1-3をご覧ください。こちらは、いきいき学部の学生に対するアンケート結果となります。1ページ目の設問、「いきいき学部では、学生生活を通じた生きがいくつくりや仲間づくりを目的としています。生きがいくつくりや仲間づくりができましたか」という問いに対する各学科の満足度は、記載のあるグラフのとおりとなります。各学科ともに、「ほぼ達成しまあまあ満足している」と回答された方が割合としては一番多くなっております。園芸学科1だけは「十分達成し満足している」と「ほぼ達成し満足している」が同数でございます。

また、ほとんどの学科で「十分に達成し満足している」または「ほぼ達成し満足している」と回答している方の割合が8割を超えております。こころとからだの健康学科1と園芸学科1については100%となっておりまして、8割を超えていないのはこころとからだの健康学科2とパソコン学科3です。こころとからだの健康学科2が63.6%、パソコン学科3が66.7%となっております。

また、グラフにはございませんが、いきいき学部全体の満足度を見ますと「十分に達成し満足している」と「ほぼ達成し満足している」と回答した方の合計は無回答だった方を除きまして、126人中109人となりまして、割合は86.5%となっております。これも令和5年度の結果と比べますと、令和5年度が81.4%でしたので、5.1ポイン

トの増加となっております。

続いて、5ページをご覧ください。5ページの設問で「授業内容は分かりやすかったですか」という問いをしておりまして、これに対してほとんどの方が「十分理解し満足している」、「ほぼ理解し、まあまあ満足している」と回答いただいておりますので、授業の難易度の設定は適切だったのではないかと考えております。

続きまして、資料の1－4、令和7年度の入学生について報告をいたします。資料1－4「令和7年度ふなばし市民大学校在籍者数」をご覧ください。これは6月末現在の数字となっております。入学者数はまちづくり学部で86人、いきいき学部で215人、合計301名となりました。令和6年度の入学者数が352名でしたので、比べますと全体で51名の減少となりました。令和7年6月30日現在の数字ですが、退学者が2名出ておりますので、現在の6月末時点の在籍者数は299名となっております。前回3月の運営協議会でも報告をさせていただいておりますが、パソコン学科2の申込み者数が15名に満たなかったために、今年度は休講となっております。

続きまして、資料の1－5、入学者の状況です。各学科、クラスごとの入学者の最年少、最年長、平均年齢、年代分布を表した表になります。30歳代の方がボランティア養成学科に1名、こころとからだの健康学科に1名入学されております。また、スポーツコミュニケーション学科の平均年齢が今年度は59.2歳となっております。例年スポーツコミュニケーション学科はほかの学科に比べると平均年齢が低いのですが、今年度は例年に比べてもかなり低い平均年齢となっております。令和6年度は63.4歳でしたので、例年と比べて50代の方が多い構成となっております。

右下の欄、入学者全体から見た割合ですが、60歳以上が91.7%、65歳以上が81.7%、70歳以上が59.1%となっております。これは令和6年度と比べますと、若干高くなっているという結果でございました。

続きまして、資料の1－6、こちらは学部ごとの年代分布の割合をグラフにしたものでございます。学部を比較しますと、まちづくり学部のほうが30代から60代の構成割合が大きくなっておりまして、70歳以上の構成割合は、まちづくり学部のほうが47.7%、いきいき学部のほうが63.7%となっております。

議題の1「令和6年度の修了生及び令和7年度の入学生について」、報告は以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの「令和6年度修了生及び令和7年度入学生について」、質問等がございましたらお願いいたします。

岡委員、どうぞ。

○岡委員

アンケートのうち、例えば7ページ、生涯学習コーディネーター養成学科のアンケートで、回答者数が16人で、25人というのは学科に所属している人が25人ということですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

25人が在籍者数、修了者数ですね。16人が回答者数になります。

○岡委員

アンケート結果では16人が16人満足したという結果を出されていましたが、9名の方はアンケートに答えられていないということですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

そうですね。

○岡委員

ということは、学生が100%満足したとはいえないのではないのでしょうか。そういうふうに受け取ったほうがいいと思います。以上です。

○高山会長

ほかに何かございますか。

○石川副会長

今の意見と同じで、いきいき学部を見た場合、もっと差が激しいですね。つまり、在籍者に対してアンケートをどう取られたか分からないですけども、在籍者が242名いて、アンケートに答えられたのはトータルで130名なんですね。つまり、学生の53%の人がお答えになっている。それで各クラスによって極端に差が出ておりますよね。

だから、同じアンケートとして、ヒアリングの声としてですが、例えば、くらしの教養学科2は、30人中11人のお答えですから37%、くらしの教養学科1だったら6割の方、こころとからだの健康学科だったら77%ぐらいありますが、パソコン学科2は23人中6人の方のお答えですし、クラスによってものすごく差があるのと、アンケートとしての評価を26%でもするのかどうか、私は若干疑問という気がします。

ものすごく差があって、アンケートのやり方とか進め方がよく分からないのですけれども、23人中6人とか25人中9人の方が答えたとか、極端なクラスが結構散見されるので、この辺はどうなのかなと思ったんですけどね。

○事務局（市民大学校事業課長）

アンケートの実施方法ですが、学生全員に配付しており、回答については任意としております。例年、特段積極的な呼びかけはしてきませんでしたけれども、園芸学科1はかなり回答率が高くて90.0%でしたけれども、一番低いところだとパソコン学科2が26.1%となって、今回は学科によってかなり差があります。来年度については、回答数が少ない学科がいくつかございましたので、積極的に提出の呼びかけをしたいと思っております。

○石川副会長

これは、毎年アンケートを配って、あとは回収を待つだけという流れになるのですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

そうです。毎年お配りをして回収、1月ぐらいに配付をさせていただいて、2月の授業の終わりまでに提出していただくというような形になっています。

○石川副会長

今年はクラスによっては、例年以上に驚くべき数字ですよ。

○事務局（市民大学校事業課長）

大分差が大きいですね。アンケート回答者数が一桁というのは過去にはあまりなかったと思います。

○石川副会長

ちょっとアンケートとしては疑問だなという感が正直します。

○高山会長

ほかに何かございますか。

私のほうから1点。資料1-4の令和7年度の在籍者数ですけれども、まちづくり学部 of 申込者が99名で、実際の入学者が86名ですね。同じようにいきいき学部も242名の申し込みで実際の入学者が215名。かなり数字的にはダウンしていますけれども、この辺はどういうふうに理解されていますか。

○事務局（市民大学校事業課長）

この数は例年このぐらい下がってしまうところがあります。申込者数から入学者が減る

というのは例年同様の傾向がありまして、やはり申し込んでから実際に入学するまでの間に、体調不良ですとかお考えが変わったりですとか、通ってみようと思っていたけれど遠いからやめましたという方もいらっしゃると思いますので、ここの数値が減っているのは例年どおりというところがございます。ですが、今年度入学者数がかなり少ないというのは事実としてあります。

○高山会長

そうですね。入学者については前回の運営協議会でも皆さんから、ちょっと問題ですね、どうしたらいいでしょうかという話も出ていましたからね。特にスポーツコミュニケーション学科の在籍者数が15名なので、一人欠けてしまうと休講になってしまう危機的な状況ですね。

○事務局（市民大学校事業課長）

入学者数が301名ですので、先ほども説明いたしましたとおり、前年度と比べると51名減少しています。前年度比で入学者が増えているのはこことからだの健康学科1と園芸学科1、2になります。それ以外は同数か減ってまして、特に落ち込みが大きいのはパソコン学科で、昨年度は116名の申込みがありましたが、今年度は75人に減少しています。入学者数も昨年度は100名に対して今年度は64名となっておりますので、かなりの数が減っているというところがございます。

この辺につきましては、直近2年間、令和5年度、令和6年度の応募者数は120名程度ありましたけれども、長期的に見ますと減少傾向にございますので、来年度の実施内容につきましては、現在は初心者向けのクラスを4つ設置しておりますけれども、そのコマ数を含めた検討が必要だと考えております。

会長が仰っていたスポーツコミュニケーション学科につきましても、例年申込者数が少ないので、現在の初級パラスポーツ指導員資格の取得については維持をしながら見直しを検討しております。スポーツコミュニケーション学科は、働いている方にも参加していただきたい学科と考え、平日の夜間に授業を設定しております。

しかし、今年度の学生に聞いてみても、やっぱり月曜日の夜が一番参加しづらいというご意見をいただいております。働いている世代には月曜の夜はちょっと厳しいというところもございますので、来年度につきましては、より参加しやすい日程で考えていきたいと思っています。現在の50歳代、60歳代というターゲット層を確保しながらも、新しい参加者層を期待できるような曜日、土曜日の午前中の開催を基本にと今考えているとこ

ろでございます。

○高山会長

働いている方からすれば、夜間なんかは金曜日の夜辺りが一番自由時間が取れそうな感じもしますけどね。

ほかに何かございますか。岡委員、どうぞ。

○岡委員

市民大学校の入学者数が、私が入った10年以上前から比べてもすごく減っていますよね。これは事実で、それにはいろんな事情があって、高齢になっても働いている人がいるとか、そういうことも原因としては大いにあるかと思いますけれども、やっぱり市民大学校のPR活動というのをもう少し実施するといいと思います。公民館とかそういうところにパンフレットを置いて、働いている人は公民館にあまり来ませんので。

昔はオープンカレッジと言ったかな、市民大学校をすごくアピールするような、そういうイベントなんかも実施していました。だから、何かもう一つPRすることをちょっと考えていただければと思います。

私の修了した生涯学習コーディネーター養成学科も完全に定員割れして、コーディネーターになる人もどんどん減ってきておりますので、その辺はいろいろな運営活動にも影響してきております。ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

○事務局（市民大学校事業課長）

先ほど岡委員もおっしゃっていたとおり、申込者数が減っている要因というのはいろいろあると思いますけれども、先ほどお話のあったシニア世代の就労が増えているとか、そういう事もひとつあると思います。

昨年度修了した方で、「市民大学校に1年通ってすごくよかったよ」と言ってくれた方がいらっしゃったんですけれども、「でも意外にみんな知らないんだよね」と。我々はアピールしているつもりですが、それが相手に実際届いていないというところがあるかと思っています。

広報活動については、昨年度は例年どおり実施したのですが、入学者数が少ない結果となりましたので、今年度は、本庁舎、船橋駅前の歩道橋、民間の京葉銀行、イオンモール、そういったところにご協力いただきながら、デジタルサイネージを実施しようと考えております。また、船橋市公園協会が船橋市民まつりでブースを設けますので、市民大学校のパンフレットを配布しPRをするなども考えております。

あとは、ふなばしエコカレッジという環境関係の学習をするボランティア育成の講座があり、生涯学習と親和性が高いので、修了生の方に入学願書をご案内するなどの活動をしていきたいと考えております。

○高山会長

前も発言しましたがけれども、フェイスビルで行う市民活動フェアでブースを出して、入口近くでPRしたこともありましたので、そこら辺も含めてまた検討していかなければいけませんね。

ほかに何かございますか。

○石川副会長

資料1－1のカウントの仕方で私ずっと疑問に思っているんですけども、令和6年度も令和7年度も、在籍率を出しますよね。それはもう入学が決まった入学者数に対して、今現在在籍している人の在籍率を出しているんですけども、その数字は100%に近い、90%以上に当然なっているんですよね。

実際の定員に対する率というのは見ないのですか。定数に対して極端に減ってきているというのが、まちづくり学部なんかは大きな課題だと思うんですよね。いきいき学部も学部によっては36名の定員に対して22名だとか24名だとか、こころとからだの健康学科2が低い。定員が決まっている以上、学生数を維持することが必要ではないかなと思うんですけども、その見方がなくて、在籍者数の在籍率を出す意味が私はよく分かりません。ある意味、必要ないと思うんですけどね。それよりも定員に対してどれだけの学生が集まったのか、その視点がいつもないので気にはなっていました。

○事務局（市民大学校事業課長）

例年この資料で特に入っていないのですが、ここに定員充足率を足すことは可能でございますので、来年度以降はそれを足したものを作成していきます。

○高山会長

そのほか何かございませんか。

ありがとうございました。それでは議題1を終了いたします。

続きまして、議題2「特別講座の実施について」の議事に入ります。事務局からの説明をお願いいたします。

○事務局（市民大学校事業課長）

続きまして、議題2「特別講座の実施について」、報告いたします。資料の2－1「特

別講座「パラレルキャリアコースの実施について」をご覧ください。

今年度の特別講座「働き方はひとつじゃない パラレルキャリアコース」につきましては、昨年度と同様、働いている世代の方でも参加しやすいように、年間を通じての事業ではなく、全5回程度のコンパクトな内容としまして、平日の夜の時間帯で、交通の利便性を考えまして船橋駅などの大きな駅の近くで開催いたします。

講座の内容につきましては、資料2-2、チラシのほうをご覧ください。パラレルキャリアを研究されている大学教授や、副業を実践されている方のお話を聞きながら、参加者同士のグループワークを通じ、ご自身のキャリア形成に向けた新たな一歩を踏み出すきっかけとなることを目指しております。

期間ですが、9月3日から10月1日までの全5回、毎週水曜日の午後7時30分から9時までです。場所が中央公民館の5階、第3・第4集会室で開催いたします。

このコースの目的、内容、実施方法について説明をします。本業と並行して別のキャリアを築くことを支援することを目的としておりまして、これにより個人のスキルや経験を多様化させ、より柔軟で充実したキャリアを実現することを目指しております。

コースの内容ですが、まず1回目、講師が立川智也さんです。この方が受講のガイダンス、コースのコーディネーター、ファシリテータを務めていただきますので、受講ガイダンスとグループワークによって参加者全員のキャリアの問題意識の共有を図ります。

続いて、2回目、9月10日、講師は大村信夫さんです。この方は家電メーカーの社員の方で、パラレルキャリアマネジメント協会の理事、事務局長も務めていらっしゃいます。「パラレルキャリアで人生を切り開く」という題目でご講義いただきまして、仕事の生産性の向上ですとか、パラレルキャリアの実践例などについて具体例を学ぶ場となります。

3回目、9月17日は、中山由起子さんを講師に迎えております。この方は、昨年度このパラレルキャリアコースを受講された方になりまして、元受講生の立場からアドバイスをいただくというような場にしたいと考えております。

4回目、9月24日は、諏訪康雄先生、法政大学の名誉教授です。「キャリアの自律とキャリア権」と題し、個人が豊かにキャリア形成するためのキャリア権について学びます。

そして、最終回の5回目、10月1日、こちらは石山恒貴先生。この方も法政大学の教授ですが、「パラレルキャリアを始めよう」ということで、パラレルキャリア研究の日本における第一人者になりますので、会社勤めなどの本業をしっかりと持ちながら社会活動を行う新しい生き方と仕組みについて学ぶ場としたいと思っております。

このパラレルキャリアコースなのですが、どなたでも受講することができます。特にキャリアの多様化に興味のある方、現在の仕事に加え、新しい挑戦をしたい方に適したコースとなっております。

主な受講生層としましては、本業以外の領域にもキャリアの幅を広げていきたいと考えている20歳代から60歳代の現役で就労している方を想定しております。働いている世代の方など、ふだん市民大学校とあまり関わりのないような方に参加していただきたいと思っておりますが、興味のある方であればどなたでも参加いただけるようにしたいと考えておりまして、市内在住や年齢等の制限は設けずに開催をすることとしております。

7月15日から受付を開始しておりまして、7月15日号の広報ふなばし、船橋市ホームページ、公共施設などでのチラシの配布、SNSは船橋市の公式Xで周知を行っております。

申し込み方法は、オンラインのみとなっておりますが、電話でお問い合わせのあった方については、個別に対応をしております。昨日時点で20名の方の参加申込みがございました。

パラレルキャリアコースについては以上となります。

今年度下半期に、昨年度同様、もう1コース企画をしております。下半期のコースについては、大学での学び直しを検討されている方とか、働きながら大学に通う方、退職後に大学生になるといったことに興味を持っている社会人や中高年齢層を対象に、生涯学習の視点から現代における学び直しの価値、仕事や家庭と学業の両立方法など、幅広い情報を提供しまして、実際に大学進学を果たした社会人の体験談なども紹介しながら、参加者が自分らしい学びの形を描くきっかけとなるような内容で開催を予定しております。

議題2、特別講座については以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの議題につきまして、質問等がありましたらお願いいたします。

○岡委員

今、募集が終わって、参加申込者が20名とおっしゃられましたか。

○事務局（市民大学校事業課長）

土曜日まで募集をしております。

○岡委員

あと少しですね。定員は35名、20名が参加される予定ということですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

申し込みが、現在20名です。

○岡委員

じゃあ、目標には全然到達していないということですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

定員は35名で設定しておりますが、グループワークが多い関係で実施の際には25名ぐらいが適当な人数ではというところです。

○岡委員

こういう方がどんどん増えてくれればいいのかなと私も思います。

○事務局（市民大学校事業課長）

まだ受付しておりますので、関心がありそうな方がいらっしゃったら、ぜひご紹介いただければと思います。

○高山会長

ちなみに、下半期はいつ頃予定されているのですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

来年の1月、2月に実施予定です。

○高山会長

そうすると、中央公民館ではないですね。

○事務局（市民大学校事業課長）

東部公民館を予定しています。

○高山会長

改修された東部公民館ですね。

○事務局（市民大学校事業課長）

はい。1月中旬ぐらいから2月中旬にかけてです。

○高山会長

もうちょっと若かったら参加したいんですけどね。

○事務局（市民大学校事業課長）

前回の特別講座では90歳の方も受講されていました。

○高山会長

そうですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

ちょっと夜遅いですが、興味のある方に参加していただきたいと思います。

○高山会長

ほかにごいませんか。

それでは、議題2を終了いたします。

続きまして、議題3「市民スマホコンシェルジュ養成講座の実施について」の議事に入ります。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（市民大学校事業課準職員）

議題3「市民スマホコンシェルジュ養成講座の実施について」、報告いたします。資料3「市民スマホコンシェルジュ養成講座」のチラシをご覧ください。

本講座では、インターネットやパソコンなどの情報通信技術を利用して恩恵を得られる人と、うまく利用できないために恩恵が得られない人との間に生じる格差、いわゆるデジタルデバイドを地域課題の一つと捉え、スマートフォンの活用について教えられる人材を育て、地域での学び合いによってデジタルデバイドを解決することを目的に開催いたします。今年度で4年目の実施となります。

講座の内容については、スマートフォン等の操作に関する指導方法を中心に5日間1日4時間学び、最終日は筆記・対面テストを行います。

講座終了後は、社会教育課が所管している生涯学習サポート事業への登録や、公民館で開催しているデジタルデバイド対策講座でのボランティアなど、それぞれのお住まいの地域でスマートフォンの操作に悩みがある人をサポートするなど、活動していただきます。

期間は、10月1日（水）、10日（金）、15日（水）、22日（水）、31日（金）の全5日間、各日13時から17時まで、ふなばし市民大学校6階第1教室で開催いたします。9月1日号の広報ふなばしで受講者の募集記事を掲載するほか、公民館等にもチラシを配布し、9月1日から17日まで募集を行う予定です。受講料は無料で、定員が20名となります。

申し込み方法ですが、チラシに記載されているQRコードからオンラインでの申し込みとなります。

議題3についての説明は以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの議題につきまして、質問等がありましたらお願いいたします。

特段よろしいですか。それでは議題3を終了いたします。

続きまして、議題4「他学科聴講について」の議事に入ります。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（市民大学校事業課長）

他学科聴講について、説明をいたします。資料4「ふなばし市民大学校他学科聴講制度」をご覧ください。ここでは、令和7年10月より試行を開始いたしますふなばし市民大学校他学科聴講制度について説明いたします。

まず、「目的」ですが、本制度はふなばし市民大学校における学びの機会をさらに広げ、異なる学部も含めた受講生同士の交流を促進することを目的として、新たに設けるものでございます。これまでは受講生は自分の所属する学科の講座のみを受講しておりましたが、この制度を導入することにより、一定の条件のもとで他の学科の講座も聴講することができるようになります。

2番目の「概要」、まず聴講対象となる学科ですが、大きく2つの学部に分かれておりまして、まちづくり学部がボランティア養成学科、スポーツコミュニケーション学科、生涯学習コーディネーター養成学科、ふなばしマイスター学科、いきいき学部がくらしの教養学科、こころとからだの健康学科、パソコン学科、園芸学科。

続きまして、「聴講可能な範囲と制限」についてでございますが、まず、まちづくり学部内での学科間の聴講を可能とします。例えば、スポーツコミュニケーション学科の学生が、生涯学習コーディネーター養成学科の講座を聴講することができます。また、いきいき学部の学生は、まちづくり学部の講座を聴講することが可能になります。まちづくり学部の学生は、共通講座を除きまして、いきいき学部の講座を聴講することができません。また、いきいき学部内での学科間の聴講ができません。これは、授業料や教材費などの運営上の理由による制限となっております。聴講の受け入れ人数につきましては、各講座につき最大4名までといたします。定員を超えた場合は抽選で決定をいたします。

続きまして、3番目、「心構え」でございますが、制度を円滑に運用するために、いくつかのルールを設けております。聴講生であっても普通の受講生と同様にマナーを守っていただいて、積極的に学ぶ姿勢をお持ちいただきます。

そして4番目、「申請の流れ」ですが、聴講を希望される学生は、定められた期間内に

申請を行っていただきます。申請方法ですが、所定の他学科聴講申請書に必要事項をご記入いただきまして、事務局へ提出をいただきます。申請締切り後、事務局で調整を行い、結果は文書で通知をいたします。

5番目の「教材費等」ですが、教材費等が必要な場合につきましては、例えばまちづくり学部の講座で特別な資料が必要な場合は、聴講生自身にその実費をご負担いただきます。なお、教材費の有無につきましては、申請を受けたときに事務局よりお伝えをいたします。

6番目、「運用および見直し」でございますが、本制度は、まず令和7年度に試行的に導入いたしまして、運用状況ですとか受講生からのご意見などをもとに、今後必要に応じて見直しを行います。より多くの方に有意義な学びの場となるように柔軟な改善を図ってまいりたいと思っており、今年度は下に記載のありますように試行としまして、いきいき学部の共通講座において、まちづくり学部の受講生が聴講できる機会を設けたいと思います。共通講座は、10月8日に防災の講座が市民文化ホールでございます。12月には例年実施をしておりますが「身近な税金の話」ということで、千葉県税理士会及び船橋税務署の方にお越しいただきましてお話をさせていただきます。会場は、きららホールで行います。

以上が他学科聴講制度の概要となります。受講生の多様な学びを支える仕組みとして今後定着を目指してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

説明は以上となります。

○高山会長

ありがとうございました。

ただいまの議題につきまして、質問、ご意見等がありましたらお願いいたします。

取りあえず今年度は試行で、共通講座だけという理解でいいですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

はい。今年度は共通講座にご参加いただけるという形にしたいと思います。

○高山会長

次年度以降、今言った概要の（1）、まちづくり学部は他学科4名まで聴講できますね。

○事務局（市民大学校事業課長）

はい。

○高山会長

そうすると、その方は申し込むと全課程を出席しなければいけないのですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

そういうわけではなくて、カリキュラムの中からピックアップしたものを受講していただくという形にしたいと思っております。聴講可能とする授業を各学科の担当でこれからピックアップをさせていただいて、来年度これから講師に依頼をかけますので、そのときにこの他学科聴講制度についてお話をさせていただいてご理解いただき、来年度当初のオリエンテーションなどで学生への制度の周知と聴講可能な授業の一覧を配付したいと考えております。学びポイントも対象にしたいと思います。

○高山会長

あくまでも目的は受講生同士の交流ですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

はい。山本委員にもご出席いただいているカリキュラム編成会議という市民大学校のカリキュラムについてご意見をいただく会議があるのですが、自分の学科以外の科目を選択して参加できるような仕組みを検討してみたらどうかですとか、学科を越えての一体感の醸成を仕掛けてもいい時期ではないかというご意見をいただいたことがきっかけになっています。その中で他学科聴講を実施しているところがあるよというお話をいただき、じゃあ、ふなばし市民大学校でも検討してみようかという話になりまして、今回提案をさせていただきます。

○高山会長

最初これを見たときに、他学科聴講をして「この学科いいね、来年これ応募してみよう」と、受講生の増大を期待しているのかなと思いました。

○事務局（市民大学校事業課長）

そこも期待しています。まちづくり学部など、ほかの学科にも興味を持っていただき、受講生の参加につなげたいという考えもございますし、例年、生涯学習フェアを中央公民館で行っていましたが、今回は中央公民館が改修工事で使えないので、今年度は市民大学校で開催する予定です。ここで開催するので、市民大学校ってこういうところなんだというのを知ってもらえたらなというところもあります。

○高山会長

はい、山本委員。

○山本委員

私が言い出しっぺみたいなのところもあるのですが、学科の修了生に聞いてみると、

いろんな学科を渡り歩いて複数学科を経験している方が多いというのに気がつきまして、それならば早いうちに刺激を与えて、次への受講のときのきっかけにさせていただけたらと思うんですね。それで提案しました。

1つは、もらうのは年間カリキュラムの授業名だけなんですよね。その中の細かいことはあまり分からないんだけど、引っかけりというのは、講座名だけで魅力だなと思うことですよね。これはまた言う则自分引っかけかってくるんですけど、できれば簡単なシラバスみたいな内容が列記してあれば、さらに参考になるのかなと思うんですけどね。一応参考程度にお話をしておきます。

○高山会長

こういう新しい制度とともに応募者を増やすのだったら、例えば、今、ふなばし市民大学校運営要綱で、いきいき学部の方は次年度いきいき学部に応募できないですよね。そこら辺はもう外してやる時代になってきたのかなという感じはしているのです。今まちづくり学部は、ご案内のように同じ学科への応募はできません。まちづくり学部の他学科は応募できます。ただ、いきいき学部には翌年度は応募できませんよね。そこら辺はもう、応募者も減っているし、そろそろ運営要綱を見直す時期に来ているのかなと思っています。ふなばし市民大学校運営要綱の第10条に規定されていますが、そこら辺もそろそろ見直ししていかなければいけない時期に来ているなという感じはしています。

○事務局（市民大学校事業課長）

今年の3月に応募者数が少ないと分かり、年度当初の5月に市とも協議をしたんですけども、今年度入学している学生には何らかの制限が要綱でかかっている、まちづくり学部は今年度入学している学科といきいき学部には入れない。いきいき学部は前年度に市民大学校に在籍していると入れないという制限がかかっています。それを外すこと、1次募集で外すのか2次募集で外すのかというタイミングはあると思いますけれども、いずれにしても、今の学生に対する制限を緩和ないし撤廃することになるので、そうなるといういろいろな影響が、例えばいきいき学部に入れるならまちづくり学部は応募したけど辞退するみたいなこともあり、修了生団体に入る予定だったけれども、市民大学校に入れるなら修了生団体は辞退するといった影響も出てしまう可能性もありますので、慎重な判断が必要ということで、今年度については実施を見送り、来年度に向けてパソコン学科やスポーツコミュニケーション学科で見直しを行いますので、入学者数の状況を見て、令和9年度募集時に判断をしていこうということになりました。

○高山会長

令和8年度ではなくて、令和9年度ですか。

○事務局（市民大学校事業課長）

再来年の応募のときです。

○高山会長

ほかに何かご質問、ご意見ございませんか。特段よろしいですか。

それでは、議題4を終了いたします。

続きまして、議題5「その他」について、何か事務局からありましたらお願いいたします。

○社会教育課（社会教育課主査）

今回は、その他はございません。

○高山会長

以上で本日予定された議題は全て終了いたしました。

今回の議事を通じて何か言い忘れた事案等がありましたら、質問も結構ですのでお願いいたします。特段よろしいですか。

それでは、これをもちまして質疑を終了いたします。

本日の議事は全て終了いたしました。

なお、本日の議事録の署名は岡委員にお願いいたします。

以上をもちまして、令和7年度第1回ふなばし市民大学校運営協議会を閉会いたします。

午後3時00分閉会